

連携室だより

鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2018.5 vol. 145

東8階病棟 開棟式

● 消化器内科部長 桜井 一宏

この度、8階東病棟が開棟し、IVR-CT室、エコーラボが完成しました。予定よりやや遅れましたが、これでようやく鹿児島通信病院肝臓内科の当院への機能移転が完了したことになります。

新病棟は個室が多く、大部屋も4人部屋で余裕のある空間が確保されています。

また、桜島や錦江湾を一望できる景観で患者さんの入院生活が少しでも癒されることを期待しています。IVR-CT室も広々としたスペースで、血管造影のみならず、肝生検、ラジオ波焼灼術などの検査・治療にも活用できるものとなっています。

エコーラボにつきましては、鹿児島通信病院より3名の超音波検査技師が入職したことから、腹部超音波検査を今までよりスピーディーかつ検査件数を大幅に増やすことが可能となりました。今回の機能移転により鹿児島医療センター消化器内科の診療体制が更に充実し、鹿児島島の医療拠点の一つとして皆様の期待に応えられるよう努力して参ります。



● 東8階病棟師長 池田 智子

平成30年4月16日より鹿児島医療センター東8階病棟が開棟致しました。東8階病棟は、消化器内科、腎臓内科、眼科の患者さまの主な入院病棟となります。病室は、個室13室、4人部屋6室で構成され、病室の窓から望める錦江湾と桜島の雄大な景色には癒される環境となっています。急性期の医療を担う鹿児島医療センターで、新たな診療科が加わり、様々な疾患に対応できる専門性の高い医療、看護を実践するとともに、心安らぐ温かい看護サービスの提供を目指し、日々邁進して参りたいと考えております。今後ともよろしく願いいたします。



腎臓内科

開設

この度、平成30年4月に鹿児島医療センターに腎臓内科を新設するにあたり、立ち上げの責務の担うことになりました古庄正英と申します。私はこれまで、飯塚病院（福岡県飯塚市）を中心に、臨床腎臓病学全般の診療に携わってきました。当科では、①腎炎・ネフローゼ症候群、②慢性腎臓病（CKD）、③末期腎不全の3分野を柱に診療を行っていきます。



腎臓内科 古庄 正英

①腎炎・ネフローゼ症候群

腎炎の種類や程度は多岐に渡りますが、適切な時期に診断し、適切な治療を行う事によって、治癒を目指したりや進展を遅らせることが出来ます。診断のきっかけは検尿による尿蛋白・尿潜血の出現です。検尿異常を認めた場合は紹介をご検討下さい。必要な症例には腎生検を行い、早期診断・早期治療へ繋げて行きます。

②慢性腎臓病（CKD）

CKDの患者さんは国内に1330万人と推定されています。CKDの発症や進展には、高血圧・糖尿病・脂質異常症などの生活習慣病や、喫煙・肥満などの生活習慣そのものが深く関与しています。CKDの怖い所は一度進展すると元には戻らないことと、脳卒中や心筋梗塞などの心血管系疾患の強い危険因子となることです。CKDの進展抑制には行動変容による生活習慣の改善が必須ですが、この行動変容は一筋縄にはいきません。当科では、教育入院や継続的な外来での関わりを通して、行動変容による生活習慣の改善を含めた集学的な治療にてCKDの進展抑制を行います。

③末期腎不全

末期腎不全に至った場合の選択肢として、血液透析・腹膜透析・腎移植が挙げられます。それらの選択は、医学的な見地だけでなく十分な情報提供による患者さん自身の主体的な参加の上で行われる事が望ましいと考えています。当科では、CKDの段階より時間をかけながら療法選択を行い、血液透析・腹膜透析の導入まで継続的に行っていきます（腎移植希望の場合は紹介致します）。

皆様のお力添え頂きながら、腎疾患を有する多くの患者さんの予後改善を目指して精進して参りますので、宜しく願い申し上げます。



開設

新緑の候、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、鹿児島通信病院との医療機能移転に伴い鹿児島医療センターに眼科が新設されることとなりました。眼は直径約24mmと小さな組織ではありますが、そこから得られる情報は非常に多く疾患も様々で、主なものとしては近視や遠視をはじめとする屈折異常、一般的に耳にすることが多いと思われる流行性角結膜炎（流行り目）等の結膜炎、ドライアイなどの前眼部疾患、白内障・緑内障などの他、ぶどう膜炎や加齢黄斑変性・視神経疾患・網膜剥離などの網膜硝子体疾患があげられます。更に、頭蓋内病変に伴う視野障害や糖尿病に伴う網膜症・皮膚科疾患である Stevens-Johnson 症候群や関節リウマチをはじめとする膠原病に関連した眼病変・悪性腫瘍の転移や治療に伴う副作用による眼病変など、様々な科に関連した疾患を取り扱っています。

新設に当たり、まずは医師1人、看護師及び視能訓練士各1人の体制で診療を開始することになります。1つ1つの検査に時間を要するものが多く、他科に比べて診療時間が長めになりやすい科ではありますが、丁寧な診察を心掛けつつ、当院を受診する患者さんのお力に少しでもなれるよう他診療科の先生方や大学病院と連携を取りながら、微力ではありますが精進していきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

（文責：眼科 精松 泰子）



看護部インターンシップ研修を 実施して

平成30年3月23日に看護部インターンシップ研修を開催しました。実際に現場に入ることで、看護師の業務や当院の雰囲気を身近に感じていただき、次年度の看護師確保につなげることを目的に、企画を行いました。今年度は、看護師確保プロジェクトチームで看護部のパンフレットや新人看護師の1日としてDVDを作成し就職説明会などで説明しました。今回の参加者は、その説明会へ参加した方やホームページを見て来られた方でした。私たちプロジェクトチームの行っていることが、少しずつでも次に繋がっているのだと感じました。

はじめに病院の概要についてDVDを観ていただいた後、外来や各病棟、手術室などの見学を行いました。その後、看護の実際を体験してもらうために、外科・心臓血管外科病棟での研修を行いました。パートナーシップナーシングシステムでの看護の実際やICUからの転棟の様子、ケアなどを実際に体験していただき、看護師のスタッフ同士の関わりや患者さんとの関係性をみて、「明るい職場で雰囲気がよく、職員だけでなく患者さんとも友好的な関係性を築いており、こういう職場で働いてみたい」との感想が聞かれました。また、「就職説明会で聞いていただけでは分からなかったことが、実際に目で見て体験することで、理解することが出来た」と話されていました。

2年目看護師による看護体験の発表では、看護師となって大切にしている看護や心に残る患者さんとの関わりなどを話してもらいましたが、今回聞いた内容を今後の実習でも活かしていきたいとの意見が聞かれ、参加者と年齢の近い看護師の体験を聞くことで、実習の時に感じていたジレンマを解消する糸口になったのではないかと感じました。

意見交換会では、実際に働いてからの事や、学生のうちにしておいた方がよいことなどの質問があり、活発な意見交換ができていました。

今回、インターンシップ研修に関わり、学生が自分たちのどのような姿をみているのかを理解する機会となりました。今後も、病院見学等予定していますが、この病院で働きたいと思ってもらえるような職場にしていきたいと思えます。

(文責：東7階病棟副看護師長 今村 朋子)



新任紹介



肝臓内科
呉 健

4月から赴任となりました。呉 健と申します。消化器疾患生活習慣病学講座(旧2内科)出身で、3月までは鹿児島厚生連病院に4年間勤務しておりました。この度、医療センターに肝臓内科が新設されるのに伴いお世話になります。少人数での診療となりますが、各科先生方、スタッフの皆様方のニーズに応えられるように努力していきたいと思っておりますので、よろしくごお願い致します。肝臓は慢性的な病態の方がほとんどで、じっくりと経過をみる傾向があります。必然的に話の長い方も多く、ペースに巻き込まれてしまい、診療のペースがあがらないことも多々あるかとは思いますが、ご容赦いただければ幸いです。



泌尿器科
水間 浩平

4月から勤務することとなりました泌尿器科の水間浩平と申します。6年前にも勤務歴がありますが、前回とは病院内のシステムが大きく変わっており、慣れるまでは時間がかかりそうです。ご迷惑をかけることもあるかもしれませんがよろしくご願いたします。



泌尿器科
上村 康介

4月より勤務することとなった泌尿器科の上村康介と申します。鹿児島大学を卒業し鹿児島大学泌尿器科に入局後は県内関連病院にて研修してまいりました。鹿児島医療センターの勤務は今回が初めてとなります。しばらくはカルテや院内施設の不慣れな点がありご迷惑おかけすると思いますが、少しでも早くなれるように精進してまいります。至らないところも多くあると思いますが、よろしくご願いたします。



外科・消化器外科
埴田 宣裕

4月から外科・消化器外科で勤務することとなりました埴田と申します。卒後6年目です。琉球大学出身で、初期研修は京都の野戦病院で、後期レジデントは長崎の市立病院で修練いたしました。専門分野はまだ決めておりませんが、肝胆臓から消化管、救急疾患にも興味があります。鹿児島には越してきたばかりですが、皆様とともに鹿児島島の医療を担っていきたくと考えています。一生懸命頑張りますのでよろしくご願いたします。



小児科
森田 康子

鹿児島大学病院から赴任しました森田康子です。外来は小児循環器が大部分を占め、病棟は一般小児診療が大部分を占めています。今まで経験してきたことを生かしつつ、今まで苦手だった分野を克服できるように日々邁進できればと思います。よろしくご願いたします。



心臓血管外科
金城 玉洋

平成30年4月より心臓血管部長として赴任しました。長年勤めた県立宮崎病院心臓血管外科をあとにして14年ぶりに鹿児島島に帰ることになりました。鹿児島医療センター心臓血管外科は30年前にレジデント、20年前にスタッフとして勤務しており3回目の赴任となります。患者に日本でもトップクラスの手術技術の提供を行うとともに、つねに患者を第一に考えた診療を行うという信念をもとにこれまで医業に従事してきました。今後もそれを続けていくとともに後進の育成に尽力していきたいと思っております。よろしくご願いたします。



脳神経外科
川野 弘人

4月から勤務しております脳神経外科の川野弘人と申します。前任地は鹿屋医療センターで脳神経外科領域を全般的に診療しておりました。当院では信頼できる部長をはじめ、神経内科の先生方と協力し合いながら、適切な医療を提供していく様努力したいと考えております。何卒よろしくご願申し上げます。



第一循環器科
高崎 州亜

第4月から第一循環器科で勤務することになりました高崎州亜(くにつく)と申します。当院勤務はレジデントの頃を含め3回目となります。勤務の度に国立南九州中央病院→九州循環器病センター→鹿児島医療センターと名称は変わっていますが、当時と変わらないアットホームな雰囲気には和まれて、古巣に戻ったような気持ちで一杯です。親しみのある当院でまた働ける喜びを感じながら、皆様のお役に立てるよう邁進したいと存じます。どうぞ宜しくご願致します。



腎臓内科
古庄 正英

4月より腎臓内科を立ち上げる重責を任命頂きました古庄正英と申します。前任地は福岡県飯塚市の麻生飯塚病院で、11年ぶりに鹿児島へ戻って参りました。腎炎から慢性腎臓病(CKD)・腎代替療法導入まで当院で完結出来る環境を目指していきたいと考えています。慢性腎臓病の進行をなるべく抑制すること、腎代替療法が必要となった場合は血液透析・腹膜透析を患者さんの価値観や状態を考慮しながら提供することを、多くの方と協力しながら進めて行きたいと思っております。お力添えの程、宜しくご願致します。



脳血管内科
平嶺 敬人

2018年4月から脳血管内科で勤務することとなりました平嶺敬人と申します。2017年6月まで脳血管内科で勤務しており、7月から9ヶ月間南九州病院の神経内科で勉強しておりました。南九州病院に勤務中も休日の当直には来させていただいたため、慣れた環境で非常に働きやすく感じています。新たな気持ちで、今まで以上に頑張りたいと思っております。よろしくご願致します。



眼科
精松 泰子

鹿児島通信病院との医療機能移転に伴い、この度新たに勤務させていただくことになりました眼科の精松（あべまつ）泰子と申します。愛知県の藤田保健衛生大学を卒業後、同大学病院にて3年間の研修・勤務を行った後に故郷である鹿児島へ戻ってきました。帰郷後は鹿児島大学眼科医局へ所属し、これまでは主に関連病院で勤務を行って来ました。医療に関するモチベーションが非常に高い先生方の多いこの医療センターで、少しでも患者さんのお役に立てるよう頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



歯科口腔外科
木村 菜美子

はじめまして。2018年4月より歯科口腔外科で勤務しております木村菜美子と申します。鹿児島医療センターのような病院歯科で働くことは初めてなので、周囲の方に支えてもらいながら多くのことを学ぶことができ、充実した日々を過ごしております。まだまだ慣れないことも多く、至らない点もありご迷惑をおかけするかと思います。少しでもこの病院の一員として力になればと思っております。今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。



耳鼻咽喉科
松元 隼人

4月から勤務させていただくこととなりました、耳鼻咽喉科の松元隼人と申します。出身は鹿児島で、薬剤師としての勤務経験があります。鹿児島大学卒業後、市立病院、鹿児島大学病院で研修し、鹿児島大学耳鼻咽喉科に入局いたしました。大学以外で常勤で働くのは今回が初めてですので、毎日新鮮な気持ちで、多くのことを学ばせていただきながら、診療にあたっております。まだまだ経験が浅く、多方面で職員の皆さまにご迷惑をおかけするとは思いますが、精一杯頑張りますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。



第一循環器内科
鎌田 博之

4月より第一循環器内科で勤務することになりました鎌田博之と申します。鹿児島大学を卒業し、大学病院のプログラムで研修を行いました。4ヶ月は当院でもお世話になりました。電子カルテや院内のシステムなど不慣れでスタッフの方々へはご迷惑をおかけしておりますが、少しでも早く慣れて治療に貢献できるように頑張りたいと考えておりますのでよろしくお願い致します。



糖尿病・内分泌内科レジデント
前田 聡子

4月より糖尿病内分泌内科に赴任しました前田聡子と申します。神奈川県を卒業し、東京で初期研修医をした後、鹿児島大学糖尿病内分泌内科へ入局しました。この度、ご縁がありレジデントとして鹿児島医療センターで勤務させていただくこととなりました。患者様に寄り添いながら精一杯頑張りたいと思っております。まだまだ若輩者でご迷惑をおかけするとは存じますが、これからもどうぞ宜しくお願い致します。



皮膚腫瘍科・皮膚科
井上 明葉

こんにちは！いつもお世話になっております。出身地は千葉県、出身大学は産業医科大学であり、現在は産業医大皮膚科に所属し、皮膚科医4年目となります。昨年の夏からこちらの施設で研修できるプログラムを設置していただき、今年の4月から勉強させて頂くことになりました。至らないことも多いかと存じますが、精一杯がんばります。よろしくお願い申し上げます。趣味は写真です。もし撮られたい方がいましたら、気軽にお声掛けください！



皮膚腫瘍科・皮膚科レジデント
小森 崇矢

4月から皮膚腫瘍科・皮膚科に着任いたしました。前任地は滋賀県長浜市で、医師4年目、皮膚科医としての経験は2年目です。皮膚腫瘍全般を勉強させてもらうため、医療センターへの赴任を希望いたしました。経験不足は体力でカバーするよう頑張ります。吸収できることを最大限吸収し、学んだことを広く還元できるよう努めます。よろしくお願い致します。



消化器内科レジデント
原口 朋晋

鹿児島大学消化器疾患・生活習慣病学に入局し、2018年4月より消化器内科レジデントとして勤務させて頂いております原口朋晋（ともあき）と申します。大学病院では主に病棟業務中心でしたが、鹿児島医療センターでは外来や内視鏡などの検査が中心となり、日々多くのことを学びながら楽しく診療にあたっております。まだまだ至らぬ点が多々あり、ベテランの先生方の御助言・御指導に感謝することしきりですが、消化器内科医としての責任を自覚し、少しでも早く皆様のお力になれるよう精進していきたい所存です。何卒よろしくお願い致します。

■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター（心臓病・脳卒中・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域連携】 蘭田・丹後田・田上・吉永・迫田・中田・吉留・菊永・櫻木・田辺・前田

【がん相談】 松崎・森・水元・原田・久保・杉本・児玉

フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476

※休日・時間外は当直者で対応します。

